

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 4 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503940		
法人名	医療法人 永和会		
事業所名	グループホームわらえ		
所在地	広島県福山市金江町藁江553		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年2月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中で、入居者の皆様がお互いを認め合い生活できるよう援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームわらえ（以下、ホーム）は、医療法人永和会が運営するホームです。四季の変化を楽しめる自然に囲まれた環境にあります。母体病院が隣接し、定期的な往診や、緊急時の対応など医療面で安心できる体制を整えられています。また、薬剤師による服薬管理も行われています。職員は、ゴミ出しや、食材、日用品の買い物などを入居者と共に行い、日々の生活の中で役割を持ってもらいながら家庭的な生活を支援されています。法人はキャリアパス制度を取り入れ、人材育成に努められています。職員は全員正職員で、理念に沿ってチャレンジ目標を定め、積極的に資格取得や研修を受講するなどしてケアの質の向上に努力されています。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念を玄関、事務所内に掲げ、会議時に個々の理念への理解が深まるよう話しあっている。	開設時に作成した基本理念を3年前に見直されています。自分たちが暮らしたいと思えるホームにしたいとの思いから、「共に動き、共に感じ、共に楽しむ」を見直し後の理念とされました。職員は機会あるごとに確認し合いながら理念に沿ったケアに取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催や、地域行事への参加、住民学習会への出席、新聞の発行、来訪家族への話しなどにより理解が深まるよう取り組んでいる。	高齢化率の高い地域です。地域行事に積極的に参加し、地域との交流を図られています。地域住民の学習会では、高齢者の虐待防止などについて講師を努めることで、グループホームを理解してもらい、認知症の高齢者を地域で支えることができるよう努力されています。今年度、花見会に地域住民の参加を呼びかける計画があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	住民学習会の講師など、認知症への理解や高齢者対応、虐待への知識を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度、運営推進会議を開催しています。ご家族、地域の方、市職員、包括、職員の参加で、現在取り組んでいること、これから取り組むことなどを話し合い、出された意見を会議で報告し、サービスの向上に向けて活用している。	運営推進会議は2か月ごとに開催されています。今年度から、松永支所職員の参加が得られています。会議では、事業所の運営状況や活動報告をされています。薬剤師による薬の話や、要介護認定に関することなどについて説明や意見交換が行われています。公民館長からは、地域行事について情報提供があります。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町での研修等に積極的に参加、運営推進会議への市職員の出席など市町との連携により質が向上されるよう取り組んでいる。	運営推進会議に支所職員の出席があります。市生活福祉課とも生活保護制度について相談や協議をされています。また、市主催の研修会や地域包括支援センターの研修会にも積極的に参加されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止についての研修への参加、話し合いにより職員が理解しケアしている。</p>	<p>身体拘束禁止に関する研修は、毎年必須研修として実施し、職員に浸透しています。年長者として人格を尊重し、禁止、制止の言葉は使わないよう意識統一されています。玄関は夜間のみ施錠されています。帰宅願望がある場合は、入居者に寄り添って一緒に外出されます。現在、感染症に罹患した場合のケアマニュアル作りを検討されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人としての勉強会への参加、外部研修への参加など、様々な機会が持たれており、職員間で話し合い、勉強会で虐待に対する意識向上が話われている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体の勉強会への参加、外部研修への積極的な参加の勧めもあり、学ぶ機会も多く用意されている。また、家族の依頼により、助言等の支援も行われている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、内容について十分な説明を行い、理解して頂いたうえで、重要事項説明書に記名して頂き、その後の疑問についても都度説明させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置、職員と利用者とのより良い人間関係を築き、苦情を言い易い場を作っていき、意見を求め取り組んでいる。</p>	<p>家族が意見を言いやすい環境です。軽い運動をさせてほしいなどの意見があり、家事や散歩、ラジオ体操などをケアプランや日課に位置づけ、日々の活動に反映されています。また、家族からの要望で、集まりやすい日時を考慮し家族会開催に向けて取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、グループホーム全体の会議と各ユニットの会議を開催しており、出された意見に付いて検討し、会議録に記入し、全体に周知している。</p>	<p>毎月、ユニット会議、全体会議を開催し、意見や提案などについて話し合い、運営に反映されています。行事担当、新聞担当など担当業務を決め、職員間で活発な意見交換が行われています。また、職員の得意分野が発揮できる環境になっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアパスの概要、給与規定が開示され、職員個々の目標設定が分かり易くなされている。 また、研修案内なので広く勉強の機会を得ることができる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に研修参加が求められており、職員個々の研修参加希望、研修案内などで必要に応じた職員への声掛けが行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域での研修会への参加、交流を持ち、情報の共有や、意見交換に努めサービス向上に役立っている。</p>		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>申し込み時、家族からの聞き取りをはじめ、入居決定後に、本人を昼食招待するなど来居の機会を作り、御本人の思いを受け止め、戸惑うことが少なく努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>初期のグループホーム見学時から、御本人の不安や、家族の想いを受け止めるよう、話を聞く努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居前の情報収集を職員全体が共有し、入居に向けた対応を考え、必要であれば、医療機関、デイケアなどの利用、リハビリも検討されるなどの対応がとられている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ゆったりとした会話の時間を持つことで、入居者本人への理解をより深め、職員が生活の知恵を学ぶなど頼りになる人として接し、お互いを支え合う関係を作るよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月発行のグループホーム新聞と共に、一人ひとりの一ヶ月ごとの様子を担当者が手紙に記入し発送するなど、入居者の日々の暮らしを感じていただく努力をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの美容室、歯科医院などの利用を取り入れ、一人ひとりの今までの生活を大事にした取組をしている。</p>	<p>友人や隣人の訪問があります。馴染みの美容室、歯科医院の利用や、以前から通っていたデイケアを継続している入居者もおられます。また、買い物を兼ねて自宅を訪問するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者間の人間関係を大事にし、外出等の行事の際、隣の席にするなど配慮している。入居者御本人の状態についても他入居者の方に理解して頂けるような声掛けを行い、かかわりを持って頂けるような努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了時にも、相談等の来客を待っていると伝え、入居者の様子についても伺うように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や思いを語る事の出来る時間や人間関係を作り、その人にとって、何が必要なかを職員が考えるようにしている。	アセスメントはセンター方式を使用されています。思いや意向の把握はだんだん難しくなっています。食事や入浴時にゆっくり会話し、意向の把握に努めておられます。生け花が得意な入居者は、玄関に花を生けてもらうなど、これまでの経験や好きなことを役割として支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者一人一人の情報がカルテに綴じてあり、職員誰もが見ることができ、また、新しい情報として得たことも個人日誌に記入され、職員間で共有されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時経による個人日誌を活かし、入居者一人ひとりの一日の状態を職員が共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>個人日誌やセンター方式でのアセスメントシートを利用し、また、家族の意見も聞き、カンファレンスや毎月のユニット会議で話し合いをし、介護計画を作成している。</p>	<p>職員数人で毎月モニタリングを実施し、3か月ごとに見直しをされています。また、毎月2回、カンファレンスを実施し、計画作成担当者を中心に現状に即した介護計画を作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人日誌に声のかけ方やそれに対する反応を記入することとし、そのことでの対応職員の思い、反省を記入することとなり、全ての職員が見ることができ、それを基とした話し合いがされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>体調の変化や、入居以前の情報により、他事業所のリハビリ利用やデイケア利用が行われている。各事業所で行われている行事にも積極的に参加し、広い地域でのかかわりを持てるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源が活用できるところまで地域の中に入り込めていなが、地域行事への参加でつながりがげきつつある。地域出身の方がおられるので、その方を中心にして、地域への関わりを持って行きたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホームとしてのかかりつけ医との連携とともに、本来のかかりつけ医受診を希望されれば意向に沿えるよう対応している。病状により各専門病院を受診している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医の継続も可能です。多くの入居者は協力医療機関をかかりつけ医とされています。専門医の受診が必要な場合は、職員が付き添われます。緊急時などには、協力医療機関の看護師が医師と連携を取りながら支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に一度、グループホーム担当看護師同席で往診があり、より細かな診療治療を受けることが出来る。また在籍の看護職員への連絡、相談により対応している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の為の協力病院もあり、情報交換が行われている。出来る限り面会に行き、退院時カンファレンスに同席、帰居後へ繋ぐ対応をしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	終末期等の希望を伺っているが、現状、医療機関との連携の中で、はっきりした結論が出ていない。	看取りの経験はありません。重度化した場合や終末期には、ホームで対応できる範囲で支援されます。医療的な処置が必要になった場合は、家族と相談し、病院を紹介されます。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	利用者一人ひとりを知ることで、利用者に関わり得る事態に対応出来るよう、職員間で話し合いがもたれている。事故発生時のマニュアル制作や訓練も行われている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の非難訓練や連携施設との共同消火活動の話し合いがされている。	想定される災害は、地震と大雨等による土砂崩れです。消防署の立会いで、年2回消防訓練を実施されています。地元自治会にも協力を依頼して、訓練の際は立会いもありました。また、隣接する法人の施設や病院と災害時の協力体制が築かれています。スプリンクラーと防災カーテンが取り付けられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努めている。	入居者を尊重した声かけや対応を心がけておられます。親近感を込めながらも、礼を失わない対応を共有し、制止、拒否などの言葉は使わないよう意識統一されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とゆったりコミュニケーションをとることで、利用者一人ひとりの思いを引き出し、理解出来る声掛けをすることで、利用者の理解や分かってもらえる満足感を持つよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の中で、日課に縛られることなく利用者の思いに沿った外出や散歩、家事などの声掛けを行い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者と一緒に買い物に出かけ、好まれる衣類を購入したり、起床時の衣類も本人の希望を伺いながら援助している。希望の店で化粧品を購入したり、美容室も希望に応じて外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき、食べたいもの、季節を感じられる食材を決めたり、皮むきや野菜切り、調理、盛り付け、配膳、下膳など、出来る事を手伝って頂けるよう支援している。	毎日、入居者とスーパーマーケットへ買い出しに行き、希望の食材を購入されています。食事の支度や片づけは、できることを一緒に行い、準備から片づけまで生き生きと手際よくされている入居者もおられました。職員は入居者と歓談しながら同じものを食べ、家庭的な雰囲気です。月2回、病院の栄養士から栄養指導を受けておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事が出来るよう努めている。食事、おやつ時の水分補給はもちろん、一回量が少なめの方には、分散して勧めたり、夜間もいつでも飲んで頂けるよう容器を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛けを行い洗面所にて歯磨きをして頂いている。自力では難しい利用者に対しては職員が誘導し口腔ケアを行っている。義歯装着の利用者は、曜日を決めてポリドントにつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて排泄パターン、習慣を職員共有の情報として支援している。	自立に向けて排泄パターンを把握し、声かけ誘導されています。自立の入居者にも、食事の前後には声かけ支援されています。安心のために紙パンツやパットを使用されている入居者もおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の水分摂取の勧めや食事摂取量の把握と共に、食事内容の変化や、散歩などの運動の声掛けを行っている。また、排便チェック表の利用で、便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日入浴可能で、声掛けの時間を変化させたり、ゆったりと入浴できる時間も充分確保されている。好みに合った状態で入浴できるようにしている。	1対1でゆったりと入浴できるよう支援されています。毎日16時から入浴となっておりますが、希望の時間帯に入浴することも可能です。入居者の好みの入浴剤を選択してもらするなど、入浴が楽しめる工夫をされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況により、居室で臥床を勧めたり、希望されれ畳ユニットで臥床して頂いている。夜間は、特に消灯時間や就寝時間は決まっておらず、休みたい時間まで職員と一緒に過ごし、お茶を勧めるなど、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診ノートに受診の経過を記入している。服薬の内容は一人ひとりのカルテに綴じており、確認することが出来る。内服準備者と提供者が分かれており、処薬充注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、洗濯干しなど家事を含め、利用者のできる事を見極め、負担無く参加し、楽しめるよう、レクリエーションや散歩、裁縫、編み物、生け花などの作品作りにも取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ゴミ捨て、買い物等の外出の機会が毎日の日課にあり、他に散歩などの希望も取り入れている。	散歩を兼ねて、法人全体で使うごみ置き場まで行き来するのが日課となっています。毎日の買い物や、週1回、ホームセンターへの買い物など、交替で出かけられます。買い物時にドライブし、近郊の見どころへ立ち寄ることもあります。家族の協力を得て、花見や敬老会、忘年会などの外出、外泊行事なども支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら金銭を持っておられる方は少ないが、ご家族の了解のもとご自分で支払う方もある。利用者個人の買い物の際は、家族よりの預り金より支払っていると伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者には電話を掛けられるよう援助し、葉書の購入や投函などの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の小物を飾ったり、鉢植えを置くなど視覚的に安らぐ空間作りや、ホットカーペットなどを敷き、ゆったりと過ごせる空間になるよう工夫している。	居間には季節の飾り物や花が生けてあります。中央にテーブルと椅子があり、窓の傍にソファが置かれ程よく日光が差し込んでいます。また、一段高くなった畳のスペースに、入居者は腰を掛けたり座ったりして世間話をされています。新聞を読んだり、掃除や食事の支度を手伝ったり、家庭的な雰囲気の中で思い思いに過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方が隣り合ってすわれるソファや座布団、籐のイスなどを準備し、日中は、皆さんで楽しく談笑したりTVをゆっくり見たり出来るよう空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていたタンスや、親しみのある置物を持参して頂くなど、利用者の状態により家族と相談し、とり落ち着ける場になるよう工夫している。	居室には畳が敷かれています。入居者は使い慣れたベッドや整理ダンス、テレビなどを持ち込まれ、過ごしやすい空間になっています。家族の写真、ぬいぐるみなど、好みの物が置かれ個性に応じて居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、廊下、浴室の手すりの設置など利用者一人ひとりが、安全に暮らせるように工夫している。また、居室のネームプレートの位置や、目印など利用者が迷うことなく生活出来るように支援している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念を玄関、事務所内に掲げ、会議時に個々の理念への理解が深まるよう話しあっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催や、地域行事への参加、住民学習会への出席、新聞の発行、来訪家族への話しなどにより理解が深まるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	住民学習会の講師など、認知症への理解や高齢者対応、虐待への知識を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度、運営推進会議を開催している。ご家族、地域の方、市職員、包括、職員の参加で、現在取り組んでいること、これから取り組むことなどを話し合い、出された意見を会議で報告し、サービスの向上に向けて活用している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町での研修等に積極的に参加、運営推進会議への市職員の出席など市町との連携により質が向上されるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止についての研修への参加、話し合いにより、職員が理解しケアしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人としての勉強会への参加、外部研修への参加など、様々な機会が持たれており、職員間で話し合い、勉強会で虐待に対する意識向上が話われている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体の勉強会への参加、外部研修への積極的な参加の勧めもあり、学ぶ機会も多く用意されている。また、家族の依頼により、助言等の支援も行われている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、内容について十分な説明を行い、理解して頂いたうえで、重要事項説明書に記名して頂き、その後の疑問についても都度説明させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置、職員と利用者とのより良い人間関係を築き、苦情を言い易い場を作っていく、意見を求め取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、グループホーム全体の会議と各ユニットの会議を開催しており、出された意見に付いて検討し、会議録に記入し、全体に周知している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアパスの概要、給与規定が開示され、職員個々の目標設定が分かり易くなされている。 また、研修案内なので広く勉強の機会を得ることができる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に研修参加が求められており、職員個々の研修参加希望、研修案内などで必要に応じた職員への声掛けが行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域での研修会への参加、交流を持ち、情報の共有や、意見交換に努めサービス向上に役立っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>申し込み時、家族からの聞き取りをはじめ、入居決定後に、本人を昼食招待するなど来居の機会を作り、御本人の思いを受け止め、戸惑うことが少なく努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期のグループホーム見学時から、御本人の不安や、家族の想いを受け止めるよう、話を聞く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報収集を職員全体が共有し、入居に向けた対応を考え、必要であれば、医療機関、デイケアなどの利用、リハビリも検討されるなどの対応がとられている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ゆったりとした会話の時間を持つことで、入居者本人への理解をより深め、職員が生活の知恵を学ぶなど頼りになる人として接し、お互いを支え合う関係を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発行のグループホーム新聞と共に、一人ひとりの一ヶ月ごとの様子を担当者が手紙に記入し発送するなど、入居者の日々の暮らしを感じていただく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室、歯科医院などの利用を取り入れ、一人ひとりの今までの生活を大事にした取組をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者間の人間関係を大事にし、外出等の行事の際、隣の席にするなど配慮している。入居者御本人の状態についても他入居者の方に理解して頂けるような声掛けを行い、かかわりを持って頂けるような努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了時にも、相談等の来客を待っていると伝え、入居者の様子についても伺うように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や思いを語る事の出来る時間や人間関係を作り、その人にとって、何が必要なかを職員が考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者一人一人の情報がカルテに綴じてあり、職員誰もが見ることができ、また、新しい情報として得たことも個人日誌に記入され、職員間で共有されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時経による個人日誌を活かし、入居者一人ひとりの一日の状態を職員が共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>個人日誌やセンター方式でのアセスメントシートを利用し、また、家族の意見も聞き、カンファレンスや毎月のユニット会議で話し合いをし、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人日誌に声のかけ方やそれに対する反応を記入することとし、そのことでの対応職員の思い、反省を記入することとなり、全ての職員が見ることができ、それを基とした話し合いがされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>体調の変化や、入居以前の情報により、他事業所のリハビリ利用やデイケア利用が行われている。各事業所で行われている行事にも積極的に参加し、広い地域でのかかわりを持てるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源が活用できるところまで地域の中に入り込めていなが、地域行事への参加でつながりがけきつつある。地域出身の方がおられるので、その方を中心にして、地域への関わりを持って行きたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホームとしてのかかりつけ医との連携とともに、本来のかかりつけ医受診を希望されれば意向に沿えるよう対応している。病状により各専門病院を受診している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に一度、グループホーム担当看護師同席で往診があり、より細かな診療治療を受けることができる。また在籍の看護職員への連絡、相談により対応している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の為の協力病院もあり、情報交換が行われている。出来る限り面会に行き、退院時カンファレンスに同席、帰居後へ繋ぐ対応をしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	終末期等の希望を伺っているが、現状、医療機関との連携の中で、はっきりした結論が出ていない。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	利用者一人ひとりを知ることで、利用者になり得る事態に対応出来るよう、職員間で話し合いがもたれている。事故発生時のマニュアル制作や訓練も行われている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の非難訓練や連携施設との共同消火活動の話し合いがされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とゆったりコミュニケーションをとることで、利用者一人ひとりの思いを引き出し、理解出来る声掛けをすることで、利用者の理解や分かってもらえる満足感を持つよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の中で、日課に縛られることなく利用者の思いに沿った外出や散歩、家事などの声掛けを行い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者と一緒に買い物に出かけ、好まれる衣類を購入したり、起床時の衣類も本人の希望を伺いながら援助している。希望の店で化粧品を購入したり、美容室も希望に応じて外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき、食べたいもの、季節を感じられる食材を決めたり、皮むきや野菜切り、調理、盛り付け、配膳、下膳など、出来る事を手伝って頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事が出るよう努めている。食事、おやつ時の水分補給はもちろん、一回量が少なめの方には、分散して勧めたり、夜間もいつでも飲んで頂けるよう容器を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛けを行い洗面所にて歯磨きをして頂いている。自力では難しい利用者に対しては職員が誘導し口腔ケアを行っている。義歯装着の利用者は、曜日を決めてポリドントにつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて排泄パターン、習慣を職員共有の情報として支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の水分摂取の勧めや食事摂取量の把握と共に、食事内容の変化や、散歩などの運動の声掛けを行っている。また、排便チェック表の利用で、便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日入浴可能で、声掛けの時間を変化させたり、ゆったりと入浴できる時間も充分確保されている。好みに合った状態で入浴できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>状況により、居室で臥床を勧めたり、希望されればユニットで臥床して頂いている。夜間は、特に消灯時間や就寝時間は決まっておらず、休みたい時間まで職員と一緒に過ごし、お茶を勧めるなど、個別に対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>受診ノートに受診の経過を記入している。服薬の内容は一人ひとりのカルテに綴じており、確認することが出来る。内服準備者と提供者が分かれており、処薬充注意している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>掃除、洗濯干しなど家事を含め、利用者のできる事を見極め、負担無く参加し、楽しめるよう、レクリエーションや散歩、裁縫、編み物、生け花などの作品作りにも取り組んでいる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ゴミ捨て、買い物等の外出の機会が毎日の日課にあり、他に散歩などの希望も取り入れている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自ら金銭を持っておられる方は少ないが、ご家族の了解のもとご自分で支払う方もある。利用者個人の買い物の際は、家族よりの預り金より支払っていると伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望者には電話を掛けられるよう援助し、葉書の購入や投函などの支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の小物を飾ったり、鉢植えを置くなど視覚的に安らぐ空間作りや、ホットカーペットなどを敷き、ゆったりと過ごせる空間になるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う方が隣り合ってすわれるソファや座布団、籐のイスなどを準備し、日中は、皆さんで楽しく談笑したりTVをゆっくり見たり出来るよう空間作りを工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていたタンスや、親しみのある置物を持参して頂くなど、利用者の状態により家族と相談し、とり落ち着ける場になるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、廊下、浴室の手すりの設置など利用者一人ひとりが、安全に暮らせるように工夫している。 また、居室のネームプレートの位置や、目印など利用者が迷うことなく生活出来るように支援している。</p>		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームわらえ

作成日 平成 25 年 4 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在看取りの実施は, 法人の方針として実施していない。	看取りについて, 職員が学ぶ機会を待つ。	看取り実施施設への訪問, 取組み。	2年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。